

「数学Ⅰ 教授資料」（数Ⅰ712）訂正のお願い

常日頃は弊社書籍をお使いいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、大変恐縮に存じますが、本書に下記の誤りがございました。心よりお詫び申し上げますとともに訂正内容についてご報告させていただきます。

誠に恐れ入りますが、ご指導の際にはご留意を賜りますようお願い申し上げます。

不備を残しまして、ご迷惑をおかけいたしますこと、重ねてお詫び申し上げます。

(教授資料 本冊)

頁	行	原文	訂正文
4	14行目	演習問題 …………… 287	演習問題 …………… 288
105	左段 12行目	 は p. 344	 は p. 345,  追加例は p. 345
105	左段 下から 6行目	○  (本書p. 344参照)	○  (本書p. 345参照)
105	右段 1行目	○  (追加例) (本書p. 344参照)	○  (追加例) (本書p. 345参照)
137	右段 3行目	その座標は応用例題2の	その座標は応用例題1の
140	左段 下から 3行目	に関して、例7	に関して、例8
225	右段 1行目	ゆえに $BC = \sqrt{6}$, $\angle HBC = \angle HCA = 45^\circ$	ゆえに $BC = \sqrt{6}$, $\angle HBC = \angle HCB = 45^\circ$
274	左段 下から 7行目	証明を本書 p. 286 参考事項に載せた。）	証明を本書 p. 287 参考事項に載せた。）
285	左段 下から 13行目	コイン投げの実験結果を利用すると、 18回以上表が出る場合の相対度数は	コイン投げの実験結果を利用すると、 18枚以上表が出る場合の相対度数は
410	右段 下から 11行目	コイン投げの実験結果を利用すると、 18回以上表が出る場合の相対度数は	コイン投げの実験結果を利用すると、 18枚以上表が出る場合の相対度数は

※お持ちの刷では、上記の訂正内容が修正済みの場合がございます。

(教授資料 別冊「数学Ⅰ 学習評価に関する参考資料」)

訂正箇所	原文
23頁 左段 下から6行目	○数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。また、2つの実数の差の絶対値を数直線上の距離とみることができる。 ・練習 <u>26</u>
	訂正文 ○数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。また、2つの実数の差の絶対値を数直線上の距離とみることができる。 ・練習 <u>27</u>

※お持ちの刷では、上記の訂正内容が修正済みの場合がございます。

(指導用教科書)

頁	行	原文	訂正文
巻末 <u>24</u>	右段 下から 13行目	コイン投げの実験結果を利用すると、 18 <u>回</u> 以上表が出る場合の相対度数は	コイン投げの実験結果を利用すると、 18 <u>枚</u> 以上表が出る場合の相対度数は

※お持ちの刷では、上記の訂正内容が修正済みの場合がございます。

以上